

いこいの森

No.8

〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 電話 045-366-1111



心臓・血管センター

心臓・血管センターは、狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、心臓弁膜症や心筋症などの心臓疾患や、大動脈瘤、肺血栓塞栓症（エコノミー症候群）、閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤などの血管疾患を専門とする地域中核のセンターで、平成16年春2階北病棟に開設されました。重症な心臓病の患者様や手術後の患者様を収容する回復室および治療個室4ベッドを含む35ベッドの小さい施設ですが、循環器内科7名、心臓血管外科3名、看護師22名のスタッフが24時間体制で治療、看護に当たっています。また、救急車で来院された患者様の対応をする救命救急センター、心臓病の診断治療を行う場の画像診断部、心臓病の早期社会復帰を図るリハビリテーション部、心臓病の検査を担当する臨床検査部、心臓血管外科手術に対応する手術部、入院中の栄養指導・管理を行う栄養部、さらに治療に用いるお薬の管理を行う薬剤部など院内各部門との連携の下に、患者様のより早い疾病からの回復、社会復帰を目指しています。また、当センターは、日本循環器学会認定教育施設および心臓血管外科専門医認定機構関連施設であり、学生および若い医師を育てる教育機関としての認定を受け、広く心臓・血管の疾病的診断、治療に精通した医師、看護師を育てています。

心臓・血管センターに入院される患者様でもっとも多いのは、狭心症や心筋梗塞などの動脈硬化による心臓の筋肉に酸素や栄養を送る冠状動脈の疾患が約80%であり、心臓までカテーテルという細い管を入れて診断し、さらに小さなバルーン（風船）を使って冠状動脈が細くなったり、完全に閉塞した部位を拡げ、血液の流れを改善する治療を行っています。この診断のカテーテル検査は年間600件、バルーンによる治療は約200件です。このバルーンでの治療が適切でない方には、心臓血管外科部門で手術によるバイパス治療を行います。心臓血管外科の手術は弁膜症や動脈瘤などの手術を含め年間100件以上で、これらの内科治療、外科治療ともに他の施設と遜色のない成績を取っています。

心臓・血管センターは、地域の患者様皆様の疾病治療、健康維持・増進に役立つように尚一層スタッフ一同努めて参ります。

◆スタッフ紹介

センター長：武者春樹循環器内科部長、副センター長：舟木成樹心臓血管外科部長、循環器内科部門：國島友之主任医長、山内正博医長、井上康二医長、川崎健介医長、心臓血管外科部門：阿部裕之副部長、大野 真医長、看護部門：吉永純子看護師長、島守可奈恵主任看護師、他

心臓血管センター センター長 武者春樹





事務部

私たちの病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院は、1987（昭和62）年に横浜市西部地域の中核病院として設置され、地域の皆様の健康の回復・維持に努め、今年で18年目を迎えております。

わが国では現在、超高齢社会の到来や国・自治体財政の逼迫化などを要因として、社会経済のさまざまな面で構造改革が進められています。

「医療」の問題も例外でなく、医療費のあり方、そして安全提供を中心とした医療の質の問題などを中心課題として議論がなされており、まさに医療制度の変革の途上にあります。

こうした中、医療機関として、また医療従事者として、「医療とは、病気や怪我と闘う人々の肉体や精神の努力を支援する行為」という医療の基本概念は常に認識していく必要があると考えますが、私たちの病院は、以前から「生命の尊厳を重んじ、常に病める人の声に耳を傾け、癒すこと」を病院運営の理念、職員の基本姿勢としております。

また、社会経済の成熟化に伴って最近、CRS（Corporate Social Responsibility）、いわゆる企業の社会的責任が問われていますが、病院においても基本的な使命である「公益性」の実現として、いかに社会的責任（HSR=Hospital Social Responsibility）を果たしていくかが、より問われるようになってきています。

この点、私たちの病院は、運営の基本方針として、また昨年就任した加藤病院長の所信の中に「社会・地域貢献」を掲げ、地域中核病院として地域医療の充実に寄与すべく努力をしております。

私たちの病院は、こうした基本的な考えを持って病院長の指揮のもと運営しておりますが、この中にあって私の属する事務部について若干ご紹介をしたいと思います。

まず、患者さまが病院を訪れて最初の診察の手続き、その他受診に関わるお問い合わせ等に対応させていただいております。この際、平成17年度から始業時に関係職員全員が整列して患者さまをお迎えしております。患者さまから「デパートみたいですね」というお声もいただいておりますが、1日の仕事の始まりにあたって、病院の基本方針等を確認し、職員として「心を整える」意味でも行っています。

また、患者さまがお支払いになる診療費に関して、各保険団体との調整をはじめ適正な管理に努めるとともに、病院を地域の皆様が継続的に、かつ満足してご活用いただけるよう、診療費の使途や医療資機材の調達など効率的な運営管理に努めております。

さらに、患者さまが外来で、また入院において、より快適・安全な環境で診療をお受けいただけるよう、保安管理の面も含めて療養環境の整備に努めております。

事務部の仕事は細部にわたればいろいろありますが、紙面の都合もありますので概略をご紹介させていただきました。

病院は、医師、看護師をはじめ多くの職種、部門が協働して運営されていますが、私たち職員一同は、患者さま、地域の皆様から常に「信頼」が得られる病院であり続けるよう、これからも全力で努めてまいります。

事務部長 新保忠宣

平成17年7月25日発行

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院広報委員会・総合相談部 ☎241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 TEL:045-366-1111
企画・制作：株式会社 教育広報社 ☎102-0075 東京都千代田区三番町30番地2 財団法人 大蔵財務協会ビル TEL:03-3263-9926